公益社団法人 環境科学会 2014 年会

プ ロ グ ラ ム

公 益 社 団 法 人

環 境 科 学 会

公益社団法人 環境科学会 2014 年会

日　程：　2014 年 9 月 18 日（木）～ 19 日（金）

会　場：　『つくば国際会議場』
〒 305-0032　茨城県つくば市竹園 2-20-3
http://www.epochal.or.jp/access/index.html

交　通：　つくばエクスプレス（TX）「つくば駅」下車（終点）　徒歩 10 分
詳細は次ページのアクセス案内をご参照ください。

年会への参加登録：

・発表申込をされた方を含め，本年会に参加されるすべての方に「**参加登録**」が必要です。
・参加登録のお申込は，6 月 12 日（木）から 8 月 27 日（水）17：00 まで，下記 URL にて受付けています。

学会ホームページ：**http://www.ses.or.jp**
参加登録 URL：**http://www.pasreg.jp/reg/top/ses/participation**

・本年度は「**事前　WEB 登録／振込払い**」をご利用いただけます。
事前 WEB 登録／振込払いの方は，自動返信メールにも記載のとおり，該当金額を下記へお振り込みください。

①振込取扱票の『**通信欄**』に「**住所**」「**氏名**」「**参加申込番号**」をご記入ください。
②**自動返信メールを印刷したものが「参加票」となりますので，印刷して当日，受付にお持ちください。**

＊年会参加 事前振込口座＊
郵便振替口座
口座記号番号　00380-0-41183
加 入 者 名　公益社団法人 環境科学会

※ 8 月 27 日（水）までに参加登録と併せて事前にお振込みいただきますと，下表のとおり，参加費が当日登録より少しお安くなっておりますのでご利用ください。

（単位：円）

	登録・支払方法	正会員	準会員	非会員	非会員学生
参加費	事前登録／振込払い	6,000	3,000	9,000	5,000
	当日登録／現金払い	8,000	4,000	11,000	6,000

※事前登録をいただいても期日までにお振り込みがない場合は，「当日登録 / 現金払い」扱いになりますので，ご注意ください。当日受付にて当日登録料金の納入をお願い致します。
※なお，お納めいただいた参加費等は，ご返金できませんのでご留意ください。

交流会：　日　時：　9 月 18 日（木）　18：00 ～ 20：00
会　場：　つくば国際会議場　1F 「エスポワール」
〒 305-0032　茨城県つくば市竹園 2-20-3
会　費：　6,000 円（社会人）　/　3,000 円（学生）

【　実行委員会より重要なお知らせ　】

※今年度の 2014 年会では，講演で使用されるパソコンは各講演者に持参していただくことに致しました。講演会場では，セッション開始前に接続しての動作確認をお願い致します。

RGB ケーブル（別名：ミニ D-Sub15 ピンコネクタ，VGA 端子）で接続致しますので，それ以外の接続が必要な場合には，各自でコネクタなどの準備をお願い致します。

※自動車での来場は遠慮願います。周辺の駐車場の無料サービス券は年会実行委員会および学会事務局では発行致しません。

問合せ先：

1）参加登録・プログラムに関するお問い合わせ

〒 135-0006　東京都江東区常盤 2-9-7　グリーンプラザ深川常盤 201
公益社団法人 環境科学会　年会委員会
TEL: 03-3634-2942　/　FAX: 03-3634-2943
E-mail: nenkai2014@ses.or.jp

2）会場，設備，託児設備等に関するお問い合わせ

環境科学会 2014 年会　実行委員会
実行委員長　原澤英夫（国立環境研究所）
幹　事　長　田崎智宏（国立環境研究所）
E-mail: tasaki.tomohiro@nies.go.jp

3）要旨集の購入・その他のお問い合わせ

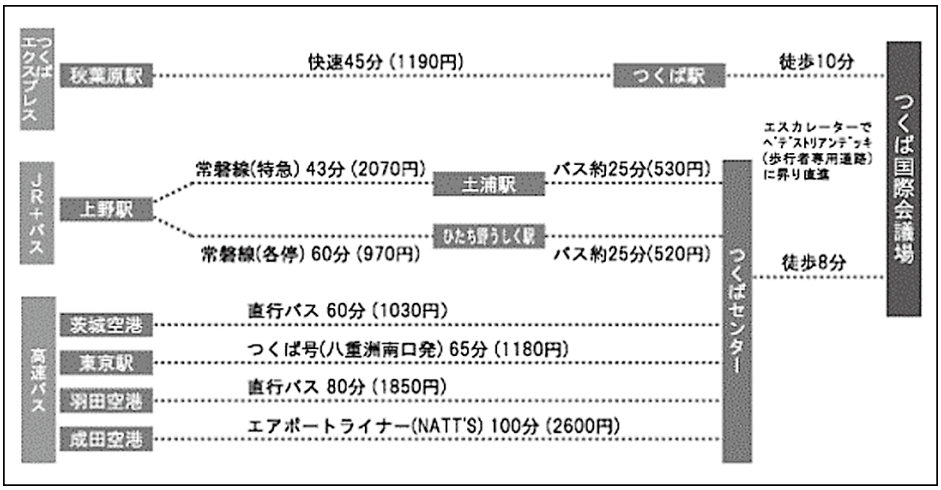
〒 135-0006　東京都江東区常盤 2-9-7　グリーンプラザ深川常盤 201
公益社団法人 環境科学会　事務局
TEL: 03-3634-2942　/　FAX: 03-3634-2943
E-mail: office@ses.or.jp

4）入会手続きに関するお問い合わせ

公益社団法人 環境科学会　会員管理業務担当室
TEL: 03-5389-6291　/　FAX: 03-3368-2822
E-mail: ses-post@bunken.co.jp

つくば国際会議場へのアクセス案内

アクセスルート

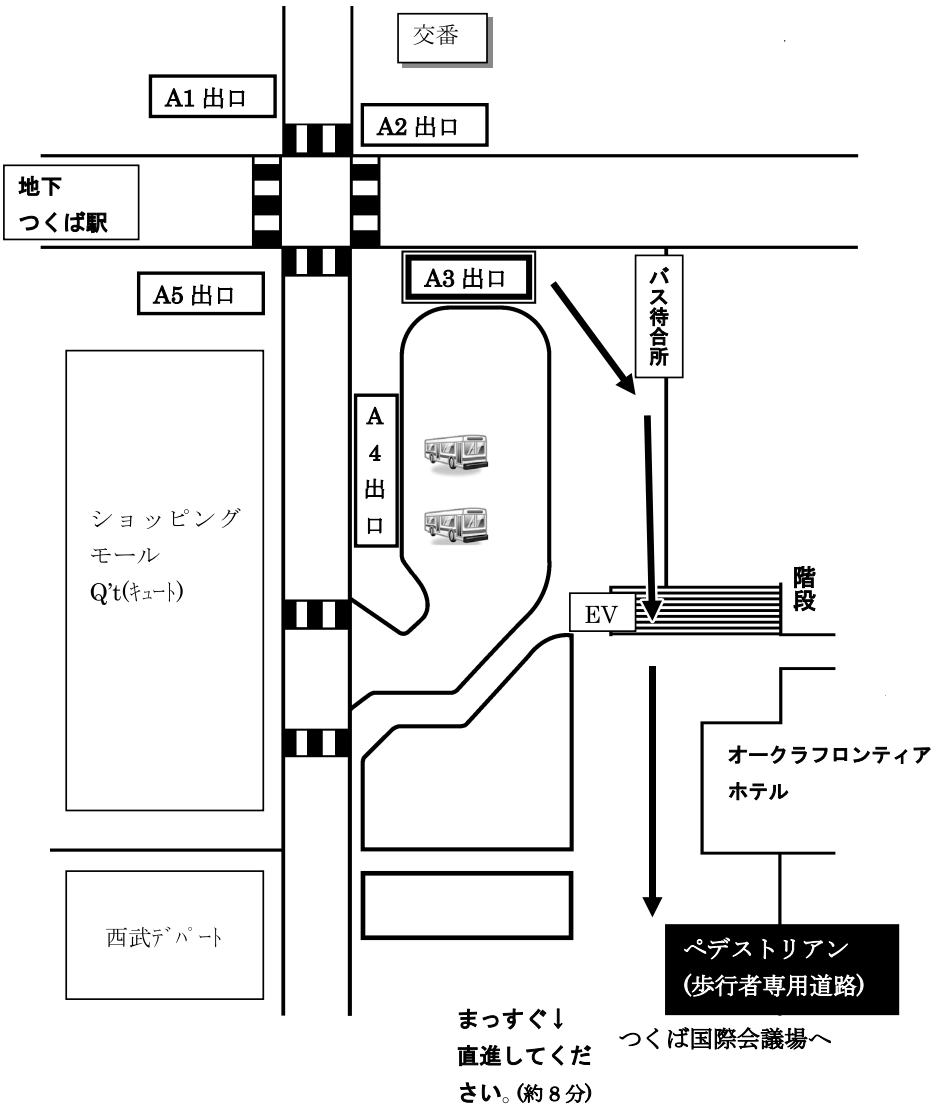


※　つくばへのご来場は、つくばエクスプレス(TX)のご利用が便利です。

※ つくばセンターから(TX **つくば駅**隣接)南北に通るペデストリアン(歩行者専用道路)をご利用いただくと最短ルートになります。

※お車での来場はご遠慮ください。
※周辺の駐車場の無料サービス券は年会実行委員会および学会事務局では発行致しません。

つくばセンター周辺案内

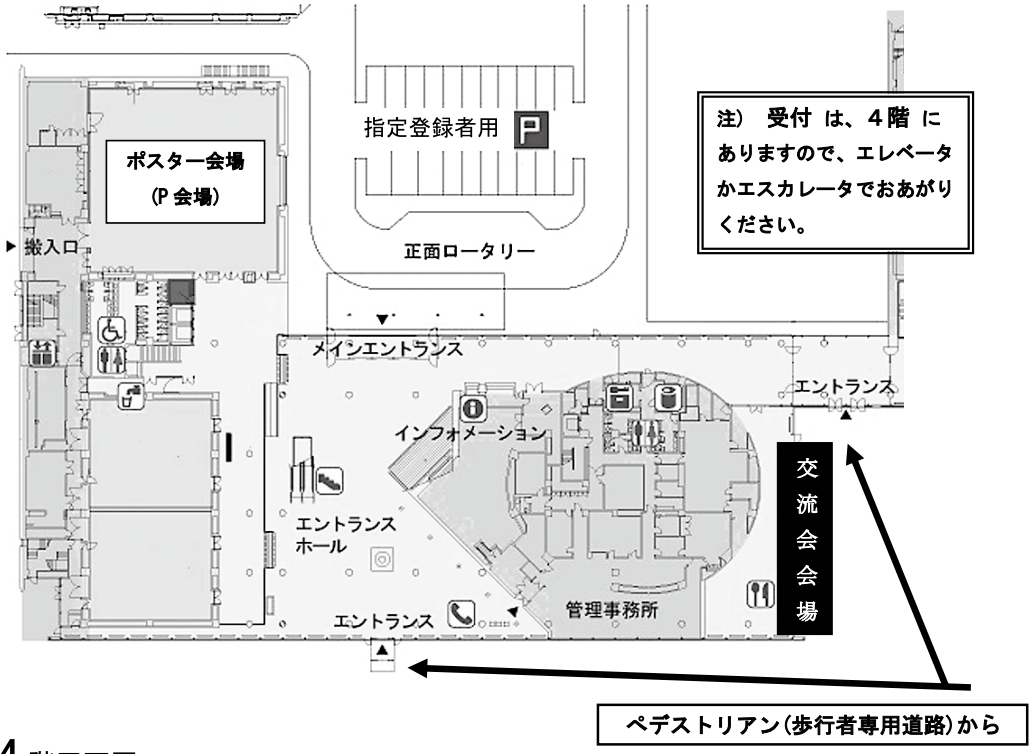


つくばエクスプレスをご利用の場合：

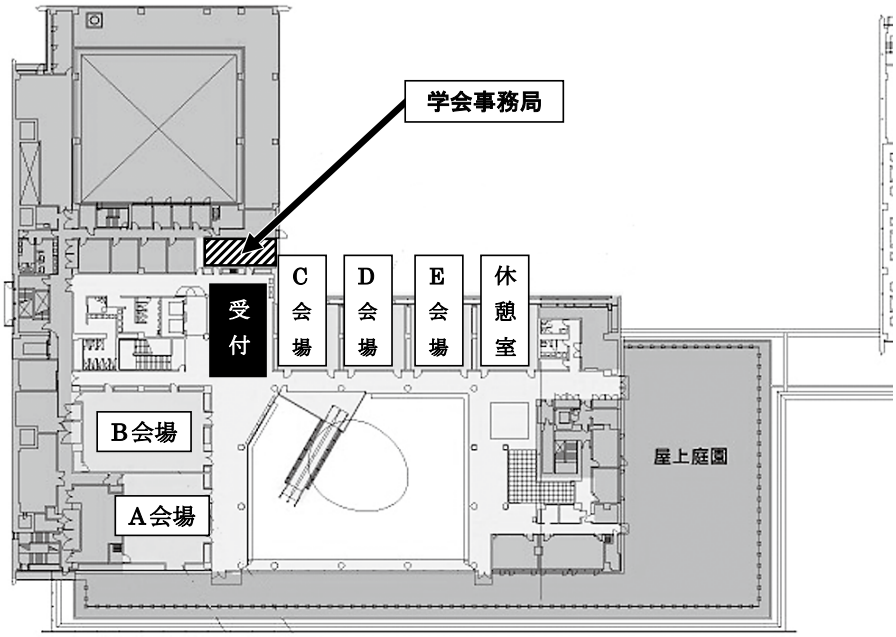
- **A3 出口**をご利用いただき地上へ出ますと、つくばセンターのバスターミナル（ロータリー）に出ます。
- ロータリーを右に見ながら進行していただきますと階段があります。（EV も有）
- 階段をのぼり、そのままペデストリアン（歩行者専用道路）を直進、約８分。
- つくば国際会議場へは、このバスターミナル発着のバスもご利用いただけます。
  http://www.kantetsu.co.jp/bus/rosen/timetable/tsukuba.html をご参照ください。

会　場　案　内

1 階平面図



4 階平面図



発表者の方々へ

１．受　　付

口頭発表，シンポジウムならびにポスター発表，いずれへの参加も，必ず**４階受付**にて受付手続きを行ってください。

２．発表時間

口　頭　発　表：15 分（発表 10 分，質疑応答及びパソコンの入れ替え 5 分）
シンポジウム：オーガナイザーにお問い合わせください。
ポスター発表：9 月 18 日（木）11：00 までにポスターを所定の場所に掲示してください。
ポスター発表時間帯は： 9 月 18 日（木）12：15 ～ 14：00 です。

このうち，**発表・討論のコアタイムは 9 月 18 日（木）12：30 ～ 13：30 です。**
この時間帯には，発表者は必ずポスター前にて発表を行ってください。同時間帯に年会優秀発表賞の審査が行われます。それ以外の時間帯は自由に閲覧できます。

３．発表方法

口頭発表・シンポジウム

- **各発表会場では，プロジェクタを用意致しますが，パソコンは用意致しませんので，各自でご用意ください。**
- セッション開始前に動作確認をお願い致します。時間に余裕をもって進行にご協力ください。
- RGB ケーブル（別名：ミニ D-Sub15 ピンコネクタ，VGA 端子）で接続致しますので，それ以外の接続が必要な場合には，各自でコネクタなどの準備をお願い致します。

- OHP は用意いたしません。
- 発表時のパソコン操作は各自で行ってください。

ポスター発表

- 掲示は受付後に 9：15 から行うことができます。
- 掲示に必要なマグネットは事務局で用意いたします。（テープ類は使用できません）
- ポスターは A0 サイズ（縦）以内でご用意ください。
  （使用予定のパネルは，掲示面積 W90 × H210cm です。）
- 机や電源など掲示板以外の設備の使用をご希望される場合には，**事前に**実行委員会までメールでお問い合わせください。当該設備をご持参いただく場合やご希望に沿えない場合もありますのでご了承ください。
- ポスターの撤去は，9 月 18 日（木）15：00 から 17：00 までに各自で撤去願います。
  （17：00 を過ぎても撤去されていないポスターは，年会実行委員会が撤去・廃棄しますので，ご了承ください。）

公益社団法人 環境科学会　2014 年会　プログラム

会場名		A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	P会場
部屋番号		4F-405会議室	4F-406会議室	4F-404会議室	4F-403会議室	4F-402会議室	1F多目的ホール
9月18日（木）	9:00	9:00　受付開始					
	9:15				持続可能システム	環境評価のシナリオと指標	
	9:30	シンポジウム1 ポスト2015時代における大学の役割と環境科学	シンポジウム2 沖縄県における赤土等流出問題	シンポジウム3 製品環境規制がアジア企業に与える影響	1D-0930	1E-0930	ポスター発表 （閲覧のみ） ※11:00までに掲示してください。
	9:45				1D-0945	1E-0945	
	10:00				1D-1000	1E-1000	
	10:15				1D-1015	1E-1015	
	10:30				1D-1030	1E-1030	
	10:45				環境動態・環境影響	環境技術・環境負荷低減	
	11:00	森　壮一 内山弘美	岡川　梓 日引　聡	有村俊秀 道田悦代	1D-1100	1E-1100	
	11:15				1D-1115	1E-1115	
	11:30				1D-1130	1E-1130	
	11:45	9:30～12:15	9:30～12:15	9:30～12:15	1D-1145	1E-1145	
	12:00					1E-1200	
	12:15	昼休み 12:15-14:00					ポスター発表・討論 12:15-14:00 コアタイム 12:30-13:30
	12:30						
	12:45						
	13:00						
	13:15						
	13:30						優秀発表賞審査・投票 14:00～切
	13:45				環境意識・ライフスタイル	環境汚染の調査と評価	
	14:00	シンポジウム4 生物工学を基盤とした環境動態解析と化学物質処理	シンポジウム5 旭硝子財団 環境研究 近藤次郎グラント発表会	シンポジウム6 資源間コンフリクトと環境ガバナンス	1D-1400	1E-1400	ポスター発表 （閲覧のみ）
	14:15				1D-1415	1E-1415	
	14:30				1D-1430	1E-1430	
	14:45				1D-1445	1E-1445	
	15:00				1D-1500	1E-1500	
	15:15	学術賞記念シンポジウム			環境モデリング・環境経済政策	環境リスクの評価	※15:00～17:00の間に撤去してください。
	15:30	細見正明 林　彬勒	鈴木基之 岡田光正	馬場健司 増原直樹	1D-1530	1E-1530	
	15:45				1D-1545	1E-1545	
	16:00				1D-1600	1E-1600	
	16:15	14:00～16:45	14:00～16:45	14:00～16:45	1D-1615	1E-1615	
	16:30				1D-1630	1E-1630	
	16:45						
	17:00						表彰式／特別講演会 17:00～17:45
	17:15						
	17:30						
	17:45						
	18:00	交流会（若手育成事業表彰式を含む） 「つくば国際会議場内　レストラン　エスポワール 」 18:00～20:00					

会場名		A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
部屋番号		4F-405会議室	4F-406会議室	4F-404会議室	4F-403会議室	4F-402会議室
9月19日（金）	9:00	9:00　受付開始				
	9:15				環境マネジメント	環境学習・市民活動
	9:30	シンポジウム7 開発途上国での持続可能なバイオマスタウンの実現に向けて	シンポジウム8 IPCC第5次報告書の公表と2030年削減目標 実行委員会企画シンポジウム	シンポジウム9 室内環境中の未規制物質の問題	2D-0930	2E-0930
	9:45				2D-0945	2E-0945
	10:00				2D-1000	2E-1000
	10:15				2D-1015	2E-1015
	10:30				2D-1030	2E-1030
	10:45	学術賞記念シンポジウム			環境理念・環境政策	マテリアルフロー解析
	11:00	迫田章義 望月和博	青柳みどり 田 崎 智 宏	雨谷敬史 三宅祐一	2D-1100	2E-1100
	11:15				2D-1115	2E-1115
	11:30				2D-1130	2E-1130
	11:45	9:30～12:15	9:30～12:15	9:30～12:15	2D-1145	2E-1145
	12:00				2D-1200	2E-1200
	12:15	昼休み 12:15～13:30				
	12:30					
	12:45					
	13:00					
	13:15				国際協力・海外事情	バイオマス利活用
	13:30	シンポジウム10 物質フロー研究から物質ストック研究への展開	シンポジウム11 化学物質リスク最小化に向けた環境リスク評価手法	シンポジウム12 地域のエネルギーシフト・ガバナンスのあり方	2D-1330	2E-1330
	13:45				2D-1345	2E-1345
	14:00				2D-1400	2E-1400
	14:15				2D-1415	2E-1415
	14:30	学術賞記念シンポジウム	化学物質管理戦略研究会企画シンポジウム		2D-1430	2E-1430
	14:45					
	15:00	森口祐一 谷川寛樹	小林　剛 竹田宜人	竹内恒夫 杉山範子		
	15:15					
	15:30					
	15:45	13:30～16:15	13:30～16:15	13:30～16:15		
	16:00					
	16:15	後片付け				
	16:30					

公益社団法人 環境科学会　2014 年会　座長一覧

会場名		A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	P会場
部屋番号		4F-405会議室	4F-406会議室	4F-404会議室	4F-403会議室	4F-402会議室	1F多目的ホール
9月18日（木）	9:00 9:15	9:00　受付開始					
	9:30 9:45 10:00 10:15 10:30 10:45	シンポジウム1 ポスト2015時代における大学の役割と環境科学	シンポジウム2 沖縄県における赤土等流出問題	シンポジウム3 製品環境規制がアジア企業に与える影響	口頭発表 1D-1 持続可能システム 9:30～10:45 **平野勇二郎**	口頭発表 1E-1 環境評価のシナリオと指標 9:30～10:45 **松橋啓介**	ポスター発表 （閲覧のみ） ※11:00までに掲示してください。
	11:00 11:15 11:30 11:45 12:00	森　壮一 内山弘美 9:30～12:15	岡川　梓 日引　聡 9:30～12:15	有村俊秀 道田悦代 9:30～12:15	口頭発表 1D-2 環境動態・環境影響 11:00～12:00 **田崎智宏**	口頭発表 1E-2 環境技術・環境負荷低減 11:00～12:15 **小林　剛**	
	12:15 12:30 12:45 13:00 13:15 13:30 13:45	昼休み 12:15-14:00					ポスター発表・討論 12:15-14:00 コアタイム 12:30-13:30 優秀発表賞審査・投票 14:00〆切
	14:00 14:15 14:30 14:45 15:00 15:15	シンポジウム4 生物工学を基盤とした環境動態解析と化学物質処理 学術賞記念シンポジウム	シンポジウム5 旭硝子財団 環境研究近藤次郎グラント発表会	シンポジウム6 資源間コンフリクトと環境ガバナンス	口頭発表 1D-3 環境意識・ライフスタイル 14:00～15:15 **村上道夫**	口頭発表 1E-3 環境汚染の調査と評価 14:00～15:15 **恒見清孝**	ポスター発表 （閲覧のみ）
	15:30 15:45 16:00 16:15 16:30 16:45	細見正明 林　彬勅 14:00～16:45	鈴木基之 岡田光正 14:00～16:45	馬場健司 増原直樹 14:00～16:45	口頭発表 1D-4 環境モデリング・環境経済政策 15:30～16:45 **棟居洋介**	口頭発表 1E-4 環境リスクの評価 15:30～16:45 **高梨啓和**	※15:00～17:00の間に撤去してください。
	17:00 17:15 17:30 17:45						表彰式／特別講演会 17:00～17:45
	18:00	交流会（若手育成事業表彰式を含む） 「つくば国際会議場内　レストラン　エスポワール 」 18:00～20:00					

会場名		A会場	B会場	C会場	D会場	E会場
部屋番号		4F-405会議室	4F-406会議室	4F-404会議室	4F-403会議室	4F-402会議室
9月19日（金）	9:00 9:15	9:00　受付開始				
	9:30 9:45 10:00 10:15 10:30 10:45	シンポジウム7 開発途上国での持続可能なバイオマスタウンの実現に向けて 学術賞記念シンポジウム	シンポジウム8 IPCC第5次報告書の公表と2030年削減目標 実行委員会企画シンポジウム	シンポジウム9 室内環境中の未規制物質の問題	口頭発表 2D-1 環境マネジメント 9:30～10:45 **藤井実**	口頭発表 2E-1 環境学習・市民活動 9:30～10:45 **谷川寛樹**
	11:00 11:15 11:30 11:45 12:00	迫田章義 望月和博 9:30～12:15	青柳みどり 田 崎 智 宏 9:30～12:15	雨谷敬史 三宅祐一 9:30～12:15	口頭発表 2D-2 環境理念・環境政策 11:00～12:15 **杉山範子**	口頭発表 2E-2 マテリアルフロー解析 11:00～12:15 **島崎洋一**
	12:15 12:30 12:45 13:00 13:15	昼休み 12:15～13:30				
	13:30 13:45 14:00 14:15 14:30 14:45	シンポジウム10 物質フロー研究から物質ストック研究への展開 学術賞記念シンポジウム	シンポジウム11 化学物質リスク最小化に向けた環境リスク評価手法 化学物質管理戦略研究会企画シンポジウム	シンポジウム12 地域のエネルギーシフト・ガバナンスのあり方	口頭発表 2D-3 国際協力・海外事情 13:30～14:45 **高井　亨**	口頭発表 2E-3 バイオマス利活用 13:30～14:45 **立花潤三**
	15:00 15:15 15:30 15:45 16:00	森口祐一 谷川寛樹 13:30～16:15	小林　剛 竹田宜人 13:30～16:15	竹内恒夫 杉山範子 13:30～16:15		
	16:15 16:30	後片付け				

口 頭 発 表

【第１日目（9月18日）午　前】

D 会場（4F-403 会議室） 口頭発表 -1D-1　持続可能システム（9：30 ～ 10：45）

座　長：　平野勇二郎（国立環境研究所）

1D-0930　Assessment of Policies to Reduce Greenhouse Emissions from Building Sector in China
○Kameyama Yasuko (National Institute for Environmental Studies), Qiang Liu (National Center for C.C. Strategy & Intern'l Coop.), Takamura Yukari (Nagoya University)

1D-0945　中国東北部農村の暖房エネルギー消費に関する研究－カンと農業廃棄物の利用の視点から－
○韓　　犇，近藤加代子，林　徹夫（九州大学）

1D-1000　輸送距離別将来交通需要を考慮した次世代自動車普及による長期 CO2 排出削減効果
○大城　賢，伏間丈悟（東京工業大学），増井利彦（国立環境研究所）

1D-1015　住民の視点に立脚した次世代スマートコミュニティの提案手法の構築に関する研究
○小野裕介，永田勝也，小野田弘士，古川健吾，一久保晶，伴　寿俊（早稲田大学）

1D-1030　地熱を含むスマートコミュニティにおける最適電源構成の検討
○菊地祐斗，長坂　研（東京農工大学）

D 会場（4F-403 会議室） 口頭発表 -1D-2　環境動態・環境影響（11：00 ～ 12：00）

座　長：　田崎智宏（国立環境研究所）

1D-1100　**論文賞受賞記念講演**：黄河全流域における水資源需給構造の分類　－地下水と地表水のバランスに注目して－
○一ノ瀬俊明（国立環境研究所），大西暁生（東京都市大学），石　　峰（山東省科技発展戦略研）

1D-1115　Wind Tunnel Experiments on Investigating the Effects of Building Materials on Flow Field under Heating Conditions
○ Lin Ye，Ichinose Toshiaki（Nagoya University, National Institute for Environmental Studies）

1D-1130　屋上セダム緑化を導入した建物における表面熱収支観測
○平野勇二郎，一ノ瀬俊明（国立環境研究所）

1D-1145　Assessment of Ammonia-Hydrogen Energy Application in Kanto Region from Ammonia Emission
○ Lu Mengqian（筑波大学），Lin Bin-Le, Inoue Kazuya（産業技術総合研究所），Lei Zhongfang, Zhang Zhenya（筑波大学）

E 会場（4F-402 会議室） 口頭発表 -1E-1　環境評価のシナリオと指標（9：30 ～ 10：45）

座　長：　松橋啓介（国立環境研究所）

1E-0930　**論文賞受賞記念講演**：農薬使用に関する環境指標間の関連性分析
○佐藤正衛（農研機構中央農業総合研究センター），南石晃明（九州大学），亀屋隆志（横浜国立大学）

1E-0945　食料システムの効率化と栄養不良の撲滅が世界の天然資源および環境に及ぼす影響の評価
○棟居洋介（東京工業大学），増井利彦（国立環境研究所）

1E-1000　農業分野における気候変動適応策の実装化に向けた専門知・現場知・生活知の統合化
○馬場健司（法政大学），土井美奈子（環境自治体会議環境政策研究所），小杉素子（電力中央研究所），田中　充（法政大学）

1E-1015　主観的幸福度を用いた原発事故後における避難，帰還および被曝のトレードオフ評価
○村上道夫（東京大学），小野恭子（産業技術総合研究所），中谷　隼，沖　大幹（東京大学）

1E-1030　原発縮小に向けた電力需給ベストミックスの構築
○望月　剛（東京農工大学）

E 会場（4F-402 会議室）　口頭発表 -1E-2　環境技術・環境負荷低減（11：00 ～ 12：15）
座　長：　小林　剛（横浜国立大学）

1E-1100　廃棄物系バイオマスの高温可溶化メタン発酵に適した好熱性細菌の可溶化試験
○藥師寺佑佳（熊本県立大学），中島琢自，松本厚子（北里大学），中道隆広（長崎総合科学大学），甲斐穂高（鈴鹿工業高等専門学校），大田政史（熊本県立大学），高橋洋子（北里大学），石橋康弘（熊本県立大学）

1E-1115　海洋浮遊ゴミの日本海への流入
○岡野多門，加藤郁美（鳥取大学）

1E-1130　難燃剤含有ポリスチレンの分解生成ガス分析
○北澤龍之介，吉野　悟，坂本恵一（日本大学）

1E-1145　高圧ジェット装置による余剰汚泥減容が微生物叢の変化と排水処理性能に及ぼす影響
○吉野寛之，寺田明彦（東京農工大学），藤井忠弘（土壌環境プロセス研究所），堀　知行（産業技術総合研究所），野々口稔（東電設計），細見正明（東京農工大学）

1E-1200　土壌水分特性曲線に基づいた熱伝導率の温度依存性のモデル化
○坂口　巌（埼玉大学，JST-CREST），望月秀俊（農研機構近畿中国四国農業研究センター），片山新太（名古屋大学），粕渕辰昭（山形大学），川本　健，小松登志子（埼玉大学，JST-CREST）

【第 1 日目（9 月 18 日）午　後】

D 会場（4F-403 会議室）　口頭発表 -1D-3　環境意識・ライフスタイル（14：00 ～ 15：15）
座　長：　村上道夫（東京大学）

1D-1400　環境配慮行動と主観的幸福感の構造的関係性に関する実証的検討
○甲斐田直子（筑波大学）

1D-1415　気候変動の影響実感及び緩和・適応への意識・行動を規定する要因分析
○白井信雄（法政大学），青木えり（東京大学），田中　充（法政大学）

1D-1430　気候変動への緩和行動と適応行動における市民の認知・行動モデル
○青木えり（東京大学），白井信雄，田中　充（法政大学）

1D-1445　高齢世帯におけるエネルギーサービス需要量の推計
久保田絢子（東京工業大学），○増井利彦（国立環境研究所），棟居洋介（東京工業大学）

1D-1500　物質循環による社会的価値の創造：社会貢献型パソコンリユース事業を事例として
○小島英子，田崎智宏（国立環境研究所），加山俊也，小川拓哉，松岡夏子（三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング㈱）

D 会場（4F-403 会議室）　口頭発表 -1D-4　環境モデリング・環境経済政策（15：30 ～ 16：45）
座　長：　棟居洋介（東京工業大学）

1D-1530　**奨励賞受賞記念講演**：全球水資源モデルによる人間活動の影響評価に関する研究
○花崎直太（国立環境研究所）

1D-1545　熱需要予測におけるモデルの最適化
○原　雄大（東京農工大学）

1D-1600　沿岸海域の生態系サービスの経済価値の決定要因：ヘドニック手法の抱える課題について
太田貴大，○上原拓郎，仲上健一，高尾克樹，小幡範雄，吉岡泰亮，陳　暁晨（立命館大学）

1D-1615　Can Urban Planning Instruments Solve Externalities?: Empirical Analysis of Regulations and Taxes
○岩田和之（高崎経済大学），馬奈木俊介（東北大学）

1D-1630　An analysis of the combined reducing effect on the amount of final disposal caused by the industrial waste tax and the construction recycling measures
○ Goto Masaki（山梨大学）

E 会場（4F-402 会議室）　口頭発表 -1E-3　環境汚染の調査と評価（14：00 ～ 15：15）
座　長：　恒見清孝（産業技術総合研究所）

1E-1400　一般環境大気中有害金属類濃度の測定と季節変動・粒径別分布の解析
○三村貴弘，姫　　旭，山下裕太，小林　剛，亀屋隆志，藤江幸一（横浜国立大学）

1E-1415　大気に排出された鉛の沈着による土壌汚染の測定・解析
○ Nguyen ThiLan Binh, 小林　剛, 久保寺良光, 上田裕之, 亀屋隆志, 藤江幸一（横浜国立大学）

1E-1430　2 つの都市河川における PRTR 対象物質の検出傾向
○三保紗織，亀屋隆志，小林　剛，藤江幸一（横浜国立大学）

1E-1445　精密質量分析による尿素系除草剤 Diuron の未知フォトプロダクトの探索
○高梨啓和, 有島由紀子, 濱美紗希, 中島常憲, 大木　章, 上田岳彦（鹿児島大学）, 亀屋隆志（横浜国立大学），近藤貴志，松下　拓（北海道大学）

1E-1500　臭素酸電解水製造装置の開発と評価に関する研究　その 2
○甲斐穂高, 太田一輝（鈴鹿工業高等専門学校）, 中道隆広（長崎総合科学大学）, 石橋康弘（熊本県立大学）

E 会場（4F-402 会議室）　口頭発表 -1E-4　環境リスクの評価（15：30 ～ 16：45）
座　長：　高梨啓和（鹿児島大学）

1E-1530　アジアにおける鉛の簡易な曝露評価手法の検討－中国の E-waste 集積地を例に－
○小野恭子，恒見清孝（産業技術総合研究所）

1E-1545　家庭用製品に使用される難燃剤の室内流入量推定
○恒見清孝，川本朱美，梶原秀夫，東野晴行（産業技術総合研究所）

1E-1600　溶剤系塗料から水系塗料への物質代替における経年的実績データに基づくヒト健康と生態系へのリスクトレードオフ解析
○柴谷一平，山口治子，東海明宏（大阪大学）

1E-1615　生態系モデルに基づく化学物質の包括的生態リスク評価
○田中嘉成（国立環境研究所）

1E-1630　試験系の異なる遺伝毒性データの相互比較と構造相関
○亀屋隆志，長藤拓実，三保紗織，小林　剛，藤江幸一（横浜国立大学）

【第 2 日目 (9 月 19 日）午　前】

D 会場（4F-403 会議室）　口頭発表 -2D-1　環境マネジメント（9：30 ～ 10：45）
座　長：　藤井　実（国立環境研究所）

2D-0930　**論文賞受賞記念講演**：食品製造業におけるゼロエミッション活動の評価
張　世峰，○山本佳世子（電気通信大学），和泉　潤（名古屋産業大学）

2D-0945　長期的視点における最適な食品資源循環システム選択の為の環境・経済評価
○工藤亜実，近藤加代子，蓮尾健二（九州大学）

2D-1000　所属団体による自主行動計画策定が会員企業の自発的な温暖化対策への取り組みに果たした役割の検証
○若林雅代，有村俊秀（早稲田大学）

2D-1015　環境ラベルと企業価値の関係に関する実証分析
○高　安栄，中野牧子（名古屋大学）

2D-1030　環境と企業収益を両立しうるマテリアルフローコスト会計を化学物質管理に接続するための「環境経営」の必要性
○入江信一郎（京都工芸繊維大学）

D 会場（4F-403 会議室） 口頭発表 -2D-2 環境理念・環境政策（11：00 ～ 12：15）

座　長：　杉山範子（名古屋大学）

2D-1100　フューチャー・アースの基本理念としてのトランスディシプリナリティ
○森　壮一（総合地球環境学研究所）

2D-1115　持続可能性概念と人口減少
○佐藤　峻，倉阪秀史（千葉大学）

2D-1130　持続可能性評価のためのデカップリング指標の再構築
○高井　亨（鳥取環境大学）

2D-1145　地方自治体における環境レジリエンス評価指標の構築と試行
○馬場健司，田中　充（法政大学）

2D-1200　**優秀研究企画賞受賞記念講演**：コンパクトシティと QoL（生活の質）の文脈からみた下町評価
○栗栖　聖，田中優里，花木啓祐（東京大学）

E 会場（4F-402 会議室） 口頭発表 -2E-1 環境学習・市民活動（9：30 ～ 10：45）

座　長：　谷川寛樹（名古屋大学）

2E-0930　幼稚園・保育園の環境活動が園児や家庭に及ぼす効果－愛媛県内子町の事例－
○中口毅博（芝浦工業大学）

2E-0945　1964 年と 2020 年の家電製品を題材にした環境学習
○島崎洋一（山梨大学）

2E-1000　コンジョイント分析を用いた中長期的な電力供給の姿に対する一般市民の選好評価
○中谷　隼（東京大学），田原聖隆（産業技術総合研究所），田中浩二（e.s.feed ㈱），松本真哉（横浜国立大学），水野建樹（未踏科学技術協会）

2E-1015　クールシェア事業の実施による実質的な節電効果等に関する推計
○岩川貴志（循環共生社会システム研究所），来田博美，伊藤美喜（滋賀県地球温暖化防止活動推進センター），内藤正明（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）

2E-1030　環境ボランティア獲得のための ICT 活用についての研究
○前田恭伸（静岡大学），淺野敏久（広島大学），森　保文（国立環境研究所），犬塚裕雅（CAT），藤原圭佑（静岡大学），伊藝直哉（インテージリサーチ）

E 会場（4F-402 会議室） 口頭発表 -2E-2 マテリアルフロー解析（11：00 ～ 12：15）

座　長：　島崎洋一（山梨大学）

2E-1100　**奨励賞受賞記念講演**：ライフサイクル思考を用いた環境影響の体系的解析に関する研究～地域・生活の視点から～
○田畑智博（神戸大学）

2E-1115　マテリアルフローからみた八丈島の特性評価
○白井浩介，栗栖　聖（東京大学），齊藤　修（国連大学），荒巻俊也（東洋大学），花木啓祐（東京大学）

2E-1130　**優秀研究企画賞受賞記念講演**：レジリエントな社会基盤形成を目指した日本全土の建設ストックデータベースの構築
○奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）

2E-1145　太陽電池パネル廃棄量の将来推計と再資源化のための最適輸送システムの検討
○佐藤太平，松本　亨（北九州市立大学）

2E-1200　購入者情報及び EV 用充電スポット整備状況と自動車購入行動の関係解析
○立花潤三，田中渉太（富山県立大学）

【第２日目（9月19日）午　後】

Ｄ会場（4F-403会議室）　口頭発表 -2D-3　国際協力・海外事情（13：30 ～ 14：45）

座　長：　高井　亨（鳥取環境大学）

2D-1330　国別適応計画に対する資金支援に関する課題
○久保田泉（国立環境研究所）

2D-1345　An Asian Center of Education and Capacity Building for Sustainable Development
○森　壮一（総合地球環境学研究所）

2D-1400　インフラ輸出による温室効果ガス削減効果の定量評価
○豊田知世（島根県立大学）

2D-1415　A Research on Multi Dam Hydro Power Generation in a Smart Grid
○Raju Rai，Nagasaka Ken（Tokyo University of Agriculture and Technology）

2D-1430　Research and Development of Wind Energy for Afghanistan
○Anwarzai Mohammad Abed，Nagasaka Ken（Tokyo University of Agriculture and Technology）

Ｅ会場（4F-402会議室）　口頭発表 -2E-3　バイオマス利活用（13：30 ～ 14：45）

座　長：　立花潤三（富山県立大学）

2E-1330　バイオマス会計表を用いた事業波及効果分析―八女市の木質バイオマス利活用について―
○侯　博亜，近藤加代子，工藤亜実（九州大学），倉富久宜（丸栄産業（株））

2E-1345　バイオマス燃料の継続性及び事業性の評価に関する研究
○平山　聡，大田政史（熊本県立大学），中道隆広（長崎総合科学大学），市來宗士（熊本県立大学），甲斐穂高（鈴鹿工業高等専門学校），石橋康弘（熊本県立大学）

2E-1400　宮古島における有機物循環利用がサトウキビ畑の土壌環境と収量に与える影響の評価
○伊藤菜津生，山田健太，金井亮太，大和田健登，田村修一，藤江幸一（横浜国立大学）

2E-1415　家畜由来の有機肥料を用いた土壌における炭素・窒素収支解析と微生物群集構造の変化の把握
○金井亮太, 山田健太, 伊藤菜津生, 大和田健登, 三浦季子, 田村修一, 藤江幸一（横浜国立大学）

2E-1430　北京市の都市化が地域窒素収支に及ぼす影響評価と循環型社会にむけた対策提案
○劉　　晨（上智大学）

ポスター発表（優秀発表賞応募発表も含む）

掲示可能期間：9月18日（木）9：15～15：00（15：00以降に各自にて撤去願います）

※11：00までにはポスターを所定の場所に掲示してください。

※17：00を過ぎても撤去されていないポスターは，年会実行委員会が撤去・廃棄しますので，ご了承ください。

発表・討論時間：9月18日(木) 12：15～14:00（うち，**12：30～13：30**は「コアタイム」とします。）

※掲示期間中，ポスターは自由に閲覧することができますが，お昼の時間帯を発表・討論時間として設定しています。**「コアタイム」には発表者は必ずポスター前にて発表を行ってください。**

P-01　未来可能な社会における対話と協働――科学を演奏する
○多田　満（国立環境研究所）

P-02　黄砂バイオエアロゾルの直接採集と紫外線照射実験による発生源推定
○小林史尚，Nida Al HusnaShabrina，牧　輝弥，柿川真紀子（金沢大学），山田　丸（労働安全衛生総合研究所），岩坂泰信（滋賀県立大学）

P-03　水質プロフィールによる多摩西部と国分寺崖線の湧水の検討
○松塚雅博, 金子哲也, 関　健介(杏林大学), 松井幸恵(杉並区立富士見丘小学校), 大熊鈴子(千葉大学), 石川友美（静岡県検査センター）

P-04　PRTR データに基づいた難分解性化学物質の環境汚染実態の解明
○石橋朋典（早稲田大学）

P-05　2つの都市河川における PRTR 対象物質の検出傾向
○三保紗織，亀屋隆志，小林　剛，藤江幸一（横浜国立大学）

P-06　衛星夜間光を用いた建築物分布の時系列分析
○杉本賢二，黒田将平，奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）

P-07　Wind Tunnel Experiments on Investigating the Effects of Building Materials on Flow Field under Heating Conditions
○ Lin Ye，Ichinose Toshiaki（Nagoya University, National Institute for Environmental Studies）

P-08　日本 EU 間 FTA 締結が温室効果ガス排出量に及ぼす影響評価
○赤堀弘和，力武正吾，山本康貴（北海道大学）

P-09　二国間クレジット制度による経済・削減効果の分析
○森田　稔（早稲田大学), 杉野　誠（山形大学), 岩田和之（高崎経済大学), 有村俊秀（早稲田大学）

P-10　PM2.5 の排出抑制（削減量）の最適化に関する研究
有村俊秀（早稲田大学), 岩田和之, ○功刀祐之（高崎経済大学), 小松英司（明治大学), 平山世志衣（環境創生科学研究所）

P-11　離島における風力発電事業の導入事例から分析する課題と展望
○松村悠子，三好恵真子（大阪大学）

P-12　地熱発電をめぐる科学的エビデンスの共有を目指した専門知の構造化
○鈴木隆志（早稲田大学），増原直樹（総合地球環境学研究所），馬場健司（法政大学）

P-13　持続可能性概念と人口減少
○佐藤　峻，倉阪秀史（千葉大学）

P-14　Assessment of Ammonia-Hydrogen Energy Application in Kanto Region from Ammonia Emission
○ Lu Mengqian（筑波大学），Lin Bin-Le，Inoue Kazuya（産業技術総合研究所），Lei Zhongfang，Zhang Zhenya（筑波大学）

P-15　一般環境大気中有害金属類濃度の測定と季節変動・粒径別分布の解析
○三村貴弘，姫　　旭，山下裕太，小林　剛，亀屋隆志，藤江幸一（横浜国立大学）

P-16　大気に排出された鉛の沈着による土壌汚染の測定・解析
○ Nguyen ThiLan Binh，小林　剛，久保寺良光，上田裕之，亀屋隆志，藤江幸一（横浜国立大学）

P-17　黄砂バイオエアロゾルの微生物同定法による環境影響
○岩田佳奈，Nida Al HusnaShabrina，早川　遼，牧　輝弥，柿川真紀子（金沢大学），岩坂泰信（滋賀県立大学），小林史尚（金沢大学）

P-18　南極域における大気バイオエアロゾルの次世代シーケンサーを用いた種組成解析
○熊本洋平，小林史尚，牧　輝弥，柿川真紀子（金沢大学），山田　丸（労働安全衛生総合研究所），松木　篤（金沢大学），長沼　毅（広島大学），岩坂泰信（滋賀県立大学）

P-19　高圧ジェット装置による余剰汚泥減容が微生物叢の変化と排水処理性能に及ぼす影響
○吉野寛之，寺田明彦（東京農工大学），藤井忠弘（土壌環境プロセス研究所），堀　知行（産業技術総合研究所），野々口稔（東電設計），細見正明（東京農工大学）

P-20　家畜由来の有機肥料を用いた土壌における炭素・窒素収支解析と微生物群集構造の変化の把握
○金井亮太，山田健太，伊藤菜津生，大和田健登，三浦季子，田村修一，藤江幸一（横浜国立大学）

P-21　宮古島における有機物循環利用がサトウキビ畑の土壌環境と収量に与える影響の評価
○伊藤菜津生，山田健太，金井亮太，大和田健登，田村修一，藤江幸一（横浜国立大学）

P-22　廃棄物系バイオマスの高温可溶化メタン発酵に適した好熱性細菌の可溶化試験
○薬師寺佑佳（熊本県立大学），中島琢自，松本厚子（北里大学），中道隆広（長崎総合科学大学），甲斐穂高（鈴鹿工業高等専門学校），大田政史（熊本県立大学），高橋洋子（北里大学），石橋康弘（熊本県立大学）

P-23　森林蒸発散量の直接計測による多摩川源流域の水収支解析
浜　咲子，○小作知愛，橘　隆一，福永健司（東京農業大学）

P-24　Carbon Dioxide Emission Assessment of Primary Aluminium Industry Development in Indonesia
○ Suciati Asri，Goto Naohiro（Toyohashi University of Technology）

P-25　インドネシアのキャッサバ澱粉工場における物質フローと温室効果ガス排出量の解析
○塚本真大，後藤尚弘（豊橋技術科学大学）

P-26　マテリアルフローからみた八丈島の特性評価
○白井浩介，栗栖　聖（東京大学），齊藤　修（国連大学），荒巻俊也（東洋大学），花木啓祐（東京大学）

P-27　道路の維持管理を考慮したマテリアルフローの空間分析
○長谷川正利，奥岡桂次郎，大西暁生，谷川寛樹（名古屋大学）

P-28　中国瀋陽市を対象とした 4D-GIS を用いた都市のメタボリズムに関する研究
○陳　　暢，奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）

P-29　建設資材投入に関する地域循環圏の検討－福島県沿岸地域におけるケーススタディ－
○木下卓大，奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）

P-30　長寿命住宅導入を想定した木質循環圏における炭素ストックのシナリオ分析
○岡崎奈津子，谷川寛樹，奥岡桂次郎（名古屋大学），深堀秀敏（北九州市立大学）

P-31　太陽電池パネル廃棄量の将来推計と再資源化のための最適輸送システムの検討
○佐藤太平，松本　亨（北九州市立大学）

P-32　飲料容器廃棄物の発生要因の変化
○孫　　燁（東京大学），田崎智宏（国立環境研究所）

P-33　地域の「統合環境負荷量」指標の提案及び社会経済指標との関係に関する研究
○山口　真，越智俊介，田　　野，畠山岳大，三谷　宰，加藤　拓，谷口浩規，成富翔平，竹内恒夫（名古屋大学）

P-34　A Research on Multi Dam Hydro Power Generation in a Smart Grid
○ Raju Rai，Nagasaka Ken（Tokyo University of Agriculture and Technology）

P-35　Research and Development of Wind Energy for Afghanistan
○ Anwarzai Mohammad Abed，Nagasaka Ken（Tokyo University of Agriculture and Technology）

P-36　バイオマス燃料の継続性及び事業性の評価に関する研究
○平山　聡，大田政史（熊本県立大学），中道隆広（長崎総合科学大学），市來宗士（熊本県立大学），甲斐穂高（鈴鹿工業高等専門学校），石橋康弘（熊本県立大学）

P-37　地熱を含むスマートコミュニティにおける最適電源構成の検討
○菊地祐斗，長坂　研（東京農工大学）

P-38　専門知の提供によるステークホルダーの態度変容分析－インターネットを用いた地熱資源のトレードオフに関する討論実験－
○則武透子，高津宏明（東京大学），小杉素子（電力中央研究所），増原直樹（総合地球環境学研究所），馬場健司，田中　充（法政大学）

P-39　原発縮小に向けた電力需給ベストミックスの構築
○望月　剛（東京農工大学）

P-40　廃食油 BDF 化で副成する廃グリセリン処理物からの酵母による油脂生産
辻ひなの，○田中柚衣，中込優花，前島芽依，望月柚香，飯野百音，藤本結香，野澤尚子，御園生真美（山梨英和高等学校），柳場まな，松本美穂，長沼孝文（山梨大学）

P-41　廃食油を利用したバイオディーゼル燃料生産Ⅱ
椚　唯夏，中澤さくら，○深澤成実，堀内綺華，前田利佳，青柳香菜子，川上詩織，小林才織，山田宮子，野澤尚子，御園生真美（山梨英和高等学校），竹内　智（山梨大学）

P-42　地理情報システムを用いたトンネル掘削における土砂移動量の推計手法の検討
○金城鐘顕，吉田圭介，奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）

P-43　混合セメント導入による都道府県別の二酸化炭素排出削減量の推計
○松井健吾，長谷川正利，奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）

P-44　土壌動物による山梨県甲府市愛宕山の森の環境評価Ⅱ
杉原実乃佳，黒部　楓，佐野真帆，○谷村那子，雨宮史奈，髙榮なゝほ，林日菜子，野澤尚子，山本紘治（山梨英和高等学校）

P-45　海岸構造物を対象としたマテリアルストックデータベースの拡充に関する研究
○山下剛弥，奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学）

P-46　建築物の構造別耐用年数と都市の物質代謝の推計　－北九州市をケーススタディとして－
○佐藤大起，青柳淳之介，奥岡桂次郎，谷川寛樹（名古屋大学），深堀秀敏（北九州市立大学）

P-47　PM2.5 に対するリスク認知と情報提供方法に関する研究
○松本侑子（北九州市立大学），建野萌子（九電産業），加藤尊秋（北九州市立大学）

企画シンポジウム

【１日目】

シンポジウム－1　9 月 18 日（木）A 会場（4F-405 会議室）9：30 ～ 12：15

「ポスト 2015 時代における大学の役割と環境科学　―持続可能社会への転換に向けたトランスディシプリナリーな高等教育と人材育成―」

オーガナイザー　森　壮一（総合地球環境学研究所）客員教授
内山弘美

趣旨説明：　東日本大震災から 3 年間，国民各層における大学，科学コミュニティの在り方に関する議論では，科学的知識のサプライサイドからデマンドサイドへの視座の転換が求められている。本シンポジウムでは，1990 年代を通して開催されたシンポジウム「全体と要素」及び 2013 年まで開催されたシンポジウム「環境科学と大学の環境教育の体系化　歴史・現状・未来」の続編として，全国の環境冠大学院，環境科学研究科などの協力を得て，ポスト 2015 時代における大学の役割と環境科学の新たな課題を議論しようとするものである。

2013 年 7 月,「グローバルな持続可能性のための科学技術アライアンス」がフューチャー・アース暫定事務局を国際科学会議（ICSU）のパリ本部に設置した。2015 年 9 月の国連総会における持続可能な開発目標（SDGs）の決議に向けた国際協議と連動した今世紀最大の統合研究計画「フューチャー・アース」の現実化工程が進んでいる。環境冠大学院をはじめ国内関係大学がアジア諸国と共にステークホルダーとの協働（トランスディシプリナリティ）を進め，複雑性と不確定性を増すポスト 2015 の現実の国際社会や国民社会における新たな環境科学，高等教育そして人材育成の概念を議論しステークホルダーとの実践を展開することが求められている。

講 演 者：①基調講演「ポスト 2015 時代における設計科学としての環境学」
阿部健一（総合地球環境学研究所）教授

第一部　ポスト 2015 における環境冠大学院の理念と実践

東日本大震災後の調査報告「環境冠大学院の理念及び実践並びに現実社会の問題に対応する次世代研究者の育成について」

②講　　演「横浜国立大学環境情報学府における学際の理念と教育」
伊藤公紀（横浜国立大学）教授

③講　　演「戦略的環境リーダー育成拠点形成に関する今後の展望と課題
―環境リーダー人材ネットワークの構築と活用―」
辻村真貴（筑波大学）教授

④実践事例「北海道大学における持続可能な社会造り及び国際化に対応したプログラムとその成果」
蔵崎正明（北海道大学）助教

第二部　持続可能社会への転換に向けたトランスディシプリナリーな高等教育と人材育成

問題提起「トランスディシプリナリティの高等教育への応用について」

⑤講　　演「ポスト 2015 時代に向けた大学組織の再編」
佐藤洋一郎（京都産業大学）教授

⑥講　　演「安心・安全の科学研究教育における学際的課題」
関根和喜（横浜国立大学）客員教授

⑦講　　演「持続性社会のための健康医療科学とトランスディシプリナリティの実践」
角谷　寛（滋賀医科大学付属病院）特任教授

⑧実践事例「ポスト 2015 の持続可能な開発に向けた科学教育と草の根的実践」
長濱和代（東京大学博士課程）

第三部　総合討論「ポスト 2015 における大学の役割と環境科学の新たな課題」
まとめ

シンポジウム -2　9 月 18 日（木）B 会場（4F-406 会議室）9：30 ～ 12：15

「沖縄県における赤土等流出問題～生物多様性保全目標設定から，発生源対策の提示，対策の経済性評価まで」

プロジェクト名：生物多様性と地域経済を考慮した亜熱帯島嶼環境保全策に関する研究

オーガナイザー　岡川　梓（国立環境研究所）研究員
日引　聡（上智大学経済学部）教授

挨　　拶：山野 博哉（国立環境研究所）室長

趣旨説明：　琉球列島に代表される亜熱帯島嶼においては，過去数十年間の土地利用の改変と，それにともなう赤土等の流出が増加しており，農地から河川，沿岸にかけて生物多様性が低下していることが指摘されている。本プロジェクトでは，沖縄県久米島を対象として，生態学・環境化学・流域管理学・文化人類学・環境経済学等の研究者が協働し，(1) 赤土等流出の生態系への影響の評価 (2) 赤土等流出のメカニズムの解明 (3) 費用効果的な対策オプションの提示に包括的に取り組んでいる。本シンポジウムでは，過去 1 年半の研究プロジェクト成果を報告し，今後の取り組みについて現地政策担当者を交えた議論を行う。

講 演 者：

セッション 1　赤土流出問題の現状と歴史的背景

①「赤土等流出問題の現状」金城孝一（沖縄県衛生環境研究所）主任研究員

②「農地からの赤土流出が流域生態系に及ぼす影響～久米島での現況調査より」
佐竹　潔（国立環境研究所）主任研究員
井上智美（国立環境研究所）主任研究員

③「農業の変遷」　深山直子（東京経済大学）准教授

～質疑・討論～

セッション 2　赤土流出のメカニズム

④「農地流域における赤土流出モニタリング＆モデリング」
林　誠二（国立環境研究所）室長

⑤「ライブカメラを用いた農地の作付状況の観測」
小熊宏之（国立環境研究所）主任研究員
石黒聡士（国立環境研究所）特別研究員

～質疑・討論～

セッション 3　保全の費用と便益

⑥「サンゴ礁の価値評価：旅行者の訪問地選択行動に与える影響」
野原克仁（北星学園大学）専任講師
岡川　梓（国立環境研究所）研究員
青山はるか（(株）アーバン・コミュニケーションズ）
日引　聡（上智大学）教授

⑦「費用を考慮した農地における赤土流出対策」
堀江哲也（長崎大学）准教授
日引　聡（上智大学）教授

⑧「久米島農家の作物・サトウキビ作型選択メカニズムの解明」
岡川　梓（国立環境研究所）研究員
堀江哲也（長崎大学）准教授
須賀伸介（国立環境研究所）主任研究員

全体コメント・討論：　司会　日引　聡（上智大学）教授
吉田謙太郎（長崎大学）教授，　植田明浩（那覇自然環境事務所）所長

シンポジウム -3　9 月 18 日（木）　C 会場（4F-404 会議室）　9：30 ～ 12：15

「製品環境規制がアジア企業に与える影響」

プロジェクト名：日本貿易振興機構アジア経済研究所「製品環境規制がサプライチェーンを通じて貿易と技術普及に与える影響」

オーガナイザー　有村俊秀（早稲田大学）教授
道田悦代（アジア経済研究所）副主任研究員

挨　　拶：道田悦代（アジア経済研究所）副主任研究員

趣旨説明：　近年，EU を中心に消費者の健康や安全，環境保護を目的とした製品の性質を規制する製品環境規制が増加している。EU 向けの製品を製造する企業は，規制を遵守できなければ EU 市場へのアクセスを失うため，規制実施国を輸出相手国とする各国に対応を迫っている。製品環境規制は非関税障壁になる可能性も指摘され，製造業が集積し，サプライチェーンが張り巡らされるアジア途上国ではとりわけ懸念が大きい。そこで，本シンポジウムでは，製品含有化学物質規制である EU の REACH 規則，RoHS 指令を中心に取り上げ，これらの規制がアジア各国の政策に与える影響，また企業に与える影響と対応についてベトナム，マレーシアの企業調査データを用いて分析した内容を発表する。

講 演 者：①「アジア各国に普及する製品含有化学物質規制政策と企業への影響」
道田悦代（アジア経済研究所）副主任研究員

②「EU 環境規制の国際貿易に対する影響－非関税障壁としての RoHS 指令」
本田圭市郎（熊本県立大学）講師

③「製品環境規制がベトナムとマレーシアの企業の生産コスト及び輸出に与える影響の計量分析」　大槻恒裕（大阪大学）教授

④「製品環境規制が途上国企業の ISO14001 認証取得に与える影響」
井口　衡（跡見学園女子大学）助教
有村俊秀（早稲田大学）教授

総合討論

シンポジウム -4　9 月 18 日（木）　A 会場（4F-405 会議室）　14：00 ～ 16：45

2014 年学術賞受賞記念シンポジウム

「生物工学を基盤とした環境動態解析と化学物質処理」

オーガナイザー　細見正明（東京農工大学）教授
林　彬勒（産業技術総合研究所）主任研究員

挨　　拶：細見 正明（東京農工大学）教授

趣旨説明：　学術賞の記念講演シンポジウムは，受賞内容の「生物工学を基盤とした環境動態解析と化学物質処理」を支える 2 つのテーマ，すなわち，エコロジカルエンジニアリング（生態工学）と化学物質の処理とリスク評価からなる。ここでは，各分野を代表して講演をしていただく。

講 演 者：①「生物工学を基盤とした環境動態解析と化学物質処理」
細見正明（東京農工大学）教授

②『エコロジカルエンジニアリング』
「メタン発酵によるバイオマス利活用」
中島田豊（広島大学）准教授
「環境に配慮した農薬代替技術」
小原祐三（農業環境技術研究所）主任研究員

③『化学物質の処理とリスク評価』
「PCB の化学処理」
大野正之（(株）かんでんエンジニアリング）
「化学物質の生態リスク評価」
林　彬勒（産業技術総合研究所）主任研究員

④「総合討論」

シンポジウム -5　　9 月 18 日（木）　B 会場（4F-406 会議室）　14：00 ～ 16：45

「旭硝子財団 環境研究近藤次郎グラント 発表会」

プロジェクト名：旭硝子財団　環境研究近藤次郎グラント　発表会

オーガナイザー　鈴木基之（東京大学）名誉教授
岡田光正（放送大学）教授

挨　　拶：鈴木基之（東京大学名誉教授，旭硝子財団　環境研究選考委員長）

趣旨説明：　旭硝子財団では，平成 22 年度より「環境研究　近藤次郎グラント」研究助成プログラムの採択を行っている。助成対象は地球環境問題解決や持続可能な社会の構築に資する研究としており，たとえば新材料・プロセスや計測観測手法の開発，生態系の保全と再生，土地利用，環境教育などから年ごとに研究領域を特定して募集している。1 件あたりの助成額は験研究 700 万円以内，調査研究 400 万円以内であり，研究期間は 2 ～ 3 年間，毎年 5 ～ 6 件の採択実績がある。本年は第 3 回目のプログラムの終了発表，ならびに中間発表の場として発表会を開催し，その成果を公開する。

講 演 者：①「安定同位体比情報を利用する水資源保全に必要な森林・河川生態系の健全性評価手法の開発」（H23 採択，終了）
大手信人（東京大学）准教授

②「東京の湧水･地下水の変遷と土地利用の経年変化との関係, および将来予測に関する研究」（H23 採択，終了）
松山　洋（首都大学東京）准教授

③「乾式メタン法と多収（飼料）米を Key 技術とした養豚排水処理とリサイクルのコベネフィットシステム」（H23 採択，終了）
細見正明（東京農工大学）教授

休憩

④「酸化ストレス可視化型 *Daphnia* の創出」（H23 採択，終了）
渡邉　肇（大阪大学）教授

⑤「エコプロダクツの購入助成が消費者行動に与える影響の分析」（H23 採択，終了）
松本　茂（青山学院大学）教授

⑥「リスク表現法が住民選好にもたらす影響の定量的評価」（H25 採択，継続中）
栗栖　聖（東京大学）講師

シンポジウム -6　　9 月 18 日（木）　C 会場（4F-404 会議室）　14：00 ～ 16：45

「資源間コンフリクトと環境ガバナンス」

プロジェクト名：総合地球環境学研究所 未来設計プロジェクト
「アジア環太平洋地域の人間環境安全保障――水・エネルギー・食料連環」

オーガナイザー　馬場健司（法政大学）特任教授
増原直樹（総合地球環境学研究所）プロジェクト研究員

挨　　拶：谷口真人（総合地球環境学研究所）教授

趣旨説明：　本プロジェクトの目的は，水とエネルギーおよび食料の連環による複合的な地球環境問題（ネクサス・イシュー）に対し，環境ガバナンス（管理）の構造と政策の最適化をとおして，アジア環太平洋地域の人間環境安全保障を最大化（脆弱性を最小化）し，持続可能な社会のあり方を提示することである。本シンポジウム企画では，小浜市や別府市をはじめとする国内でのフィールド研究の中間的な成果について，(1) 科学と社会との共創（ガバナンス），(2) 水とエネルギー連環の解明，(3) 水と食料（水産資源）連環の解明，(4) ステークホルダーと合意形成，(5) 統合指標と連環解析の各サブグループから報告し，コメンテーター

として松本安生氏（神奈川大学教授）をお招きし，さらにフロアとの議論のなかでインプットを受けて Future Earth 研究としての展望を得る。

講 演 者：①「水・エネルギー・食料ネクサスとガバナンス」
谷口真人（総合地球環境学研究所）教授
②「ベースロード電源に関するエネルギー－水ネクサス」
藤井賢彦（北海道大学）准教授
③「水の機能と社会的役割，水利用のエネルギーと水のエネルギー利用」
小林　久（茨城大学）教授
④「沿岸域における水－食料（水産資源）連環」
小路　淳（広島大学）准教授
⑤「ネクサス問題の解決に向けたステークホルダー分析の可能性と限界」
馬場健司（法政大学）特任教授
⑥「水・エネルギー・食料連環に関する社会的意思決定事例の横断的分析」
増原直樹（総合地球環境学研究所）プロジェクト研究員
⑦「オントロジーを用いた水・エネルギー・食料の連関分析の試み」
熊澤輝一（総合地球環境学研究所）助教
⑧「水・エネルギー・食料連環に向けた課題と展望」
松本安生（神奈川大学）教授

【２日目】

シンポジウム -7　9 月 19 日（金） A 会場（4F-405 会議室） 9：30 ～ 12：15

2013 年学術賞受賞記念シンポジウム

「開発途上国での持続可能なバイオマスタウンの実現に向けて」

プロジェクト名：JST/JICA 地球規模課題対応国際科学技術協力事業（SATREPS）
「持続可能な地域農業・バイオマス産業の融合」

オーガナイザー　迫田章義（東京大学生産技術研究所）教授
望月和博（東京大学生産技術研究所）特任准教授

挨　　拶：迫田 章義（東京大学生産技術研究所）教授

趣旨説明：　本シンポジウムは，JST/JICA 地球規模課題対応国際科学技術協力事業（SATREPS）「持続可能な地域農業・バイオマス産業の融合」（2009 年 10 月～ 2014 年 9 月）の最終成果報告会として企画されている。当該プロジェクトの目的は，農業を産業基盤とする開発途上国において，食料とエネルギーの同時生産，地球温暖化防止，環境保全・改善，さらには雇用創成による貧困対策にもつながる近未来の社会システムとして，持続可能な地域農業・バイオマス産業の融合を提案・検証することである。この目的を達成するために，ベトナム・ホーチミン市の 2 ヶ所における実証パイロットプラントの設計, 建設, 運転, 運営を中軸にすえて，システム，プロセス，要素技術の同時開発を推進してきた。その全体概要，グループ別成果およびベトナムの若手の研究成果の一部を紹介し議論したい。

講 演 者：①「JST/JICA 地球規模課題対応国際科学技術協力事業（SATREPS），
『持続可能な地域農業・バイオマス産業の融合』の概要」
迫田章義（東京大学生産技術研究所）教授
②「Methodology to Design Agricultural and Livestock Industrial Biomass Town in Southern Vietnam」
柚山義人（農工研）上席研究員
③「微生物的セルロース前処理から見えてきたこと」
石井正治（東京大学大学院農学系研究科）教授

④「ベトナムにおける地域分散型バイオマスリファイナリーの実現をめざしたパイロットプラントでの実証研究」
望月和博（東京大学生産技術研究所）特任准教授
⑤「開発途上国における小規模バイオ燃料生産のための分離技術」
迫田章義（東京大学生産技術研究所）教授
⑥「Hygienic and environmental influences on application of biogas digested slurry at paddy field in Cu Chi District, Ho Chi Minh City」
Trinh Thi Bich Huyen（ホーチミン市工大）大学院生
⑦「Biogas Upgrading by PSA using Vietnamese biomass charcoals for household energy」
Tran Le Hai（ホーチミン市工大）大学院生
⑧「Experimental and Modelling Analysis of Small-scale Biomass Carbonization/Gasification Process」
Tran Duy Hai（ホーチミン市工大）大学院生
⑨「Self-reuse of Distillation Residue as Additional Nutrient and Liquid Media for SSF in a Bioethanol Production Process from Rice Straw」
Vu Le Van Khanh（ホーチミン市工大）大学院生

シンポジウム -8　9 月 19 日（金）　B 会場（4F-406 会議室）　9：30 ～ 12：15
「IPCC 第 5 次報告書の公表と 2030 年削減目標」
プロジェクト名：2014 年会実行委員会企画
オーガナイザー　青柳みどり（国立環境研究所）室長
田 崎 智 宏（国立環境研究所）室長

挨　　拶：原澤英夫（国立環境研究所）理事
趣旨説明：　IPCC の第 5 次報告書が公表されている。その概要について紹介し，気候変動問題の全体概要についての知見の共有をはかる。さらに，この報告書の公表を受けてはじまった我が国の 2030 年の温室効果ガス削減目標の議論に環境科学会としてどのようにのぞむべきか，フロアを交えた議論をおこないたい。
講 演 者：①「IPCC 第 5 次評価報告書　第一作業部会報告書（自然科学的根拠）について」
第一作業部会主執筆者　江守正多（国立環境研究所）室長
②「IPCC 第 5 次評価報告書第二作業部会報告書（影響・適応・脆弱性）について」
第二作業部会主執筆者　高橋　潔（国立環境研究所）主任研究員
③「IPCC 第 5 次評価報告書第三作業部会（気候変動の緩和）について」
第三作業部会主執筆者　甲斐沼美紀子(国立環境研究所)フェロー
④「COP における議論の状況と今後の進展」
亀山康子（国立環境研究所）室長
⑤「これまでの目標設定の議論の方法について」
第二作業部会主執筆者　増井利彦（国立環境研究所）室長
⑥「目標設定にむけてフロアを交えた議論　（目標決定に科学的知見を反映させるプロセスの透明性確保，環境科学会として目標設定に向けて何が提案できるか？）」
司会：青柳みどり（国立環境研究所）室長

シンポジウム -9　9 月 19 日（金）C 会場（4F-404 会議室）9：30 ～ 12：15

「室内環境中の未規制物質の問題」

プロジェクト名：厚生労働科学研究費補助金「室内環境中の未規制物質の網羅的解析に関する研究」

オーガナイザー　雨谷敬史（静岡県立大学）准教授
三宅祐一（静岡県立大学）助教

趣旨説明：　1990 年代に社会問題化したシックハウス・シックスクール問題は，建築基準法によるホルムアルデヒドなどの使用制限，13 種の化学物質の室内環境指針値の策定により改善されたが，未規制物質の問題が残っている。この問題に対しては，室内で使用され，健康影響についての報告がある個々の化学物質に対する規制と共に，化学物質と我々の生活との関わりを戦略的に考える必要がある。そこで，現在問題となっている未規制物質にどのような種類があり，それらがどのような有害性を示し，どのように曝露されているのかを，本シンポジウムを通して考えてみたい。

講 演 者：①「室内空気中の揮発性有機化合物：室内濃度指針値見直しのスキーム」
神野透人（国立医薬品食品衛生研究所）室長

②「リン酸エステル系難燃剤・ベンゾトリアゾール系 UV 吸収剤のハウスダスト中残留レベル」
磯部友彦（国立環境研究所）主任研究員

③「エコチル調査パイロット調査におけるハウスダスト中樹脂添加剤等の測定」
鈴木　剛（国立環境研究所）研究員

④「臭素系難燃剤とその代替物質のリスクトレードオフ評価」
徳村雅弘（横浜国立大学）JSPS 特別研究員

⑤「室内環境中の未規制物質へのアプローチ」
雨谷敬史（静岡県立大学）准教授

シンポジウム -10　9 月 19 日（金）A 会場（4F-405 会議室）13：30 ～ 16：15

2014 年学術賞受賞記念シンポジウム

「物質フロー研究から物質ストック研究への展開」

オーガナイザー　森口祐一（東京大学）教授
谷川寛樹（名古屋大学）教授

挨　　拶：森口祐一（東京大学）教授

趣旨説明：　物質フロー分析（Material Flow Analysis）は，着目した系に投入される原材料やエネルギーと，系から産出される製品，副産物，廃棄物，汚染物質などについて，その総量やそこに含まれる特定の物質の量，これらの収支バランスを，体系的・定量的に把握する手法で，産業エコロジー研究の主要分野の一つとして国際的にも発展してきた。さらに，近年では社会資本や耐久消費財などのストックと物質フローを関係づけた研究が盛んになっている。

本シンポジウムは，「人間活動に関わる物質フローのシステム的把握」の業績によりオーガナイザーの森口に授与された学術賞の受賞記念シンポジウムとして企画したもので，物質フロー・ストック研究の発展のレビューと金属資源を中心とする事例研究の発表を行うものである。

講 演 者：①「物質フロー研究の発展　国際的な交互作用と政策との交互作用」
森口祐一（東京大学）教授

②「グローバルサプライチェーンを通じたニッケルの国際移動量」
中島謙一（国立環境研究所）主任研究員

③「物質ストック分析の意義と鉄鋼材のフロー・ストック分析」
醍醐市朗（東京大学）特任准教授

④「世界各国の銅蓄積量・二次銅埋蔵量の推計」
橋本征二（立命館大学）教授
⑤「クリティカリティ：地下と地上の資源ストックの評価」
村上進亮（東京大学）准教授
⑥「日本におけるマテリアルストックの地理的分布とその資源価値の変化」
谷川寛樹（名古屋大学）教授
⑦　総合討論

シンポジウム－11　9月19日（金）B会場（4F-406会議室）13：30～16：15
「化学物質リスク最小化に向けた環境リスク評価手法」
プロジェクト名：化学物質管理戦略研究会企画
オーガナイザー　小林　剛（横浜国立大学）准教授
竹田宜人（製品評価技術基盤機構）調査官
挨　　拶：亀屋隆志（横浜国立大学）准教授
趣旨説明：　WSSDの2020年目標「化学物質リスク最小化」に向けて開発・運用が進められている化審法における化学物質のリスク評価について，その手法づくりに最前線で携わる専門家にご講演いただき理解を深めるとともに，リスク評価手法の精緻化や効率化に向けた今後の研究課題について議論したい。
講 演 者：①「生態影響に係る有害性評価」
菅谷芳雄（国立環境研究所）環境科学専門員
②「暴露シナリオと暴露評価～化審法のリスク評価書の概説～」
玉造晃弘（製品評価技術基盤機構）主任
③「環境モニタリングデータ，モデル，分布とリスク推計」
鈴木規之（国立環境研究所）副センター長
④「リスク評価における不確実性解析」
村田麻里子（製品評価技術基盤機構）参事官
⑤「リスク評価の理解と手法の精緻化・効率化に向けた総合討論」
司　　会：小林　剛（横浜国立大学）准教授／竹田宜人（製品評価技術基盤機構）調査官

シンポジウム－12　9月19日（金）C会場（4F-404会議室）13：30～16：15
「地域のエネルギーシフト・ガバナンスのあり方」
プロジェクト名：「『レジリエントシティ政策モデル』の開発とその実装化に関する研究」
（環境研究総合推進費1-1304）ほか
オーガナイザー　竹内恒夫（名古屋大学）教授
杉山範子（名古屋大学）特任准教授
挨　　拶：竹内恒夫（名古屋大学）教授
趣旨説明：　再生可能エネルギー，コージェネレーションなどの自立・分散型エネルギーへの転換（エネルギー・シフト）は，気候変動の重要な緩和策であり，また，気候変動に伴う電力及び電力を利用する各種サービスの機能停止への適応策であり，さらに，エネルギー分野の「国土強靭化」策の1つにも位置づけられる。ドイツ，米国などでは，自治体や組合，市民が主導するエネルギーシフトの取組事例があり，日本でも，その可能性を模索する動きもある。これらの事例や動きを「エネルギーシフト・ガバナンス」と捉え，成果，課題などを明らかにし，そのあり方を探る。
講 演 者：①「エネルギー自立地域のクライテリアの検討－日本版自治体連合の設立に向けて－」
中口毅博（芝浦工業大学）教授
②「エネルギーシフトに向けた地方自治体の役割について―日独比較から―」
杉山範子（名古屋大学）特任准教授

③「屋久島にみる日本のエネルギーシフトの未来」
増原直樹（総合地球環境学研究所）プロジェクト研究員
④「生活者からみた再生可能エネルギーへの関与の選択肢についての試論」
白井信雄（法政大学）特任教授
⑤「地域主導による自然エネルギー事業の普及方策と事例」
松原 弘直（環境エネルギー政策研究所）主席研究員
⑥「日本の地方自治体におけるエネルギー政策の動向」
加藤　拓（名古屋大学）修士前期課程
竹内恒夫（名古屋大学）教授
総合討論